

第 779 回 新潟医学会(オンライン講演会)

第 779 回新潟医学会・オンライン講演会を下記の要領によって開催致しますのでご案内申し上げます。
大学院生、学部学生の皆様、看護師、医療関係者の方々の出席を歓迎します。参加料は無料です。

ZOOM URL については新潟医学会事務局にメールでお問い合わせください。

日 時 令和 5 年 10 月 19 日 (木) 18:00 から

新潟医学会集会幹事

記

I. 特別講演 (18:00~18:30) 座長 西山 慶 先生(救急医学 教授)

「過去 11 年間に当院救命センターに搬送された

高齢者偶発性低体温症例の検討」

大橋さとみ 先生 (集中治療部 准教授)

高齢者は生理学的な特徴、認知機能低下、身体機能低下を背景として偶発性低体温症の発症リスクが高い。若年者に比較し予後が悪いことが知られており、重篤な場合に積極的治療を行うか判断に迷うことが多い。今回当院で心停止に至ったが救命された超高齢者の偶発性低体温症 2 症例を経験した。これをきっかけに、良好な予後に関連する要因を探索する目的で過去に当院に搬送された 80 歳以上の症例を調査した。

II. 特別講演 (18:30~19:00) 座長 武井 延之 先生 (脳研・腫瘍病態学 准教授)

「嗅神経回路の形成過程における mRNA 転写後制御の寄与」

福田 七穂 先生

(脳研・動物資源開発研究 准教授)

神経細胞では mRNA が翻訳される場所や時期が厳密に制御されている。私達は、RNA 結合タンパク質 hnRNP A/B の嗅神経細胞における機能を解析し、hnRNAP A/B が軸索投射やシナプス形成を担う mRNA 群の発現を時空間的に制御することで、嗅覚神経回路の形成に重要な役割を果たすことを見出した (*Cell Rep.* 42, 112398, 2023)。遺伝子改変マウスの解析で明確になった、hnRNP A/B の作用機構とその生理的意義について報告する。

III. 特別講演 (19:00~19:30) 座長 馬場 洋 先生 (麻酔科学 教授)

「電気生理学的手法を用いた、脊髄における薬剤の作用メカニズム研究」

古谷 健太 先生 (麻酔科学 准教授)

基礎研究では脊髄後角細胞からのホールセルパッチクランプ法を用いて、臨床研究においては主に運動誘発電位 (MEP) を用いて、各種薬剤の脊髄における作用を調べた。結果として、局所麻酔薬がグルタミン酸受容体を抑制すること、ニボルマブが microglia を活性化させ痛みを誘発すること、ケタミンやドロペリドール、あるいは硬膜外投与された局所麻酔薬が皮質脊髄路における神経伝達を抑制することがわかった。

IV. 特別講演 (19:30~20:00) 座長 齋藤 昭彦 先生 (小児科学 教授)

「プロフェッショナル・アイデンティティをどう育むか」

岡崎 史子 先生 (医学教育学 教授)

近年、医学教育において Professional Identity Formation (以下 PIF) が注目されている。PIF はいわゆる基礎医学や臨床医学の講義だけでは促進されない。学生の既存の自己アイデンティティを育てつつ PIF を促進するには、その影響因子を我々が知り、学習理論を意識して彼らと関わる必要がある。本講演では PIF について概説し、PIF のために現場で何ができるのかについて考えてみたい。

新潟県医師会生涯教育講座の認定を申請しております。

大 学 院 特 別 講 義

(連絡先) 新潟医学会事務局

TEL 025-227-2032

e-mail igakukai@med.niigata-u.ac.jp